

川と、サンドイッチ

「昔前と比べて、川沿いを走るラッシュや川でお昼を食べている人など、川を利用している人をよく見かけるようになったと感じる。これは、人々が川のことを飲食ができるほどの居心地の良い素敵な環境だと思いうようになってきているからである。」

東京には、かつての流れを失いながらも、清流復活事業によってよみがえった川がある。そんな川たちを紹介し、さらに、川やまちのイメージにマッチする、ランチに持っていきたいサンドイッチを紹介していく。

東京
地下
ラ

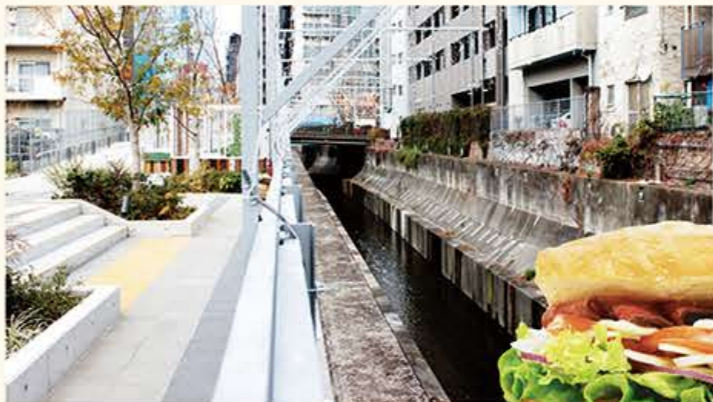
東京都下水道局は、2018年度「清流復活プロジェクト（東京地下ラby東京都下水道局）」を実施しました。
この冊子は、清流復活プロジェクトの啓蒙を目的に、本プロジェクトに参加した大学生が制作したものです。

私と川と、 サンド イッチ

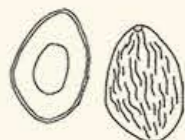
東京都下水道局によって実施されている清流復活事業は、水量が少ない河川に対し、下水を高度処理した再生水を送水することにより、河川水量が増加し、かつてのうろちのある環境をよみがえらせるものである。区部では、明治時代以降の近代工業の発展に大きな役割を果たした城南三河川と呼ばれる3つの中小河川に対して、多摩地域では、江戸時代には武蔵野の豊かな自然の中を流れながら、飲料水や農業用水の役割を果たしながらも、流れが絶えてしまった玉川上水や野火止用水、千川用水に対して事業を実施し、かつての清流を復活させている。

渋谷川

材料：ローストビーフ+しょうゆ、トマト、オニオンスライス、レタス



若者の街としてのイメージが強い「渋谷」はまた、谷底にある街でもある。地上2階を発着しているJR線に対し、地下鉄銀座線が地上3階から発着していることから、渋谷が周辺よりも低い地形であることが窺える。この地形を作ったのが渋谷川だ。渋谷川は渋谷区と港区を通り、東京湾に流れ込んでいるが、渋谷川と呼ぶのは渋谷区内のみであり、下流の港区では古川と呼ぶ。現在の渋谷川は、上流部や支川は暗渠化されており、渋谷区内は約2.6キロと非常に短く、水量の少ない河川である。2013年3月の東急東横線地下化をきっかけに始まった渋谷再開発に伴い整備された「渋谷ストリーム」という新たな商業施設に、下水が一役買っている。遊歩道の隣を流れる渋谷川の両護岸から「壁泉」と呼ばれる人工の滝が流れている。「壁泉」から流れる水は、新宿区上落合にある落合水再生センターで下水を高度処理した再生水を利用して、来訪者の目を惹きつける仕掛けになっている。



目黒川

目黒と言えば、高層マンションやおしゃれなお店が立ち並び、若者を中心に人気が高い街だ。春は目黒川を覆い尽くすほどの桜並木、秋は落語「目黒のさんま」でおなじみ、さんまが振舞われるお祭りが有名だ。目黒川は2つの支流が合流する世田谷区三宿を基点とし、中目黒駅や五反田駅付近を通り抜け、東京湾に注ぐ全長約8.3キロの比較的短い河川である。中目黒駅から目黒川の上流部に向かっていくと、国道246号線付近で川の姿を見ることができなくなる。ここより上流部は暗渠になっており、暗渠からはそれなりの水量が流れている。この水こそが清流の復活の源となる下水を高度処理した再生水である。現在、目黒川を流れている水の大部分は新宿区上落合にある落合水再生センターから送水されており、減少していた河川水量の確保に貢献している。水量の増加に伴う水質改善により魚類の数が増え、アユが東京湾から遡上してくるなど、かつての豊かな生態系を取り戻している。

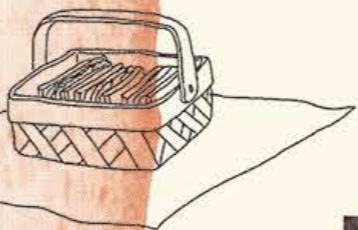


材料：サワークリーム、スモークサーモン、アボカド、トマト、レタス
ソース：しょうゆ+マヨネーズ+わさび

次々と新たな「流れ」が生まれている渋谷川で食べるサンドイッチは、川沿いの欄に設置されたテーブルやベンチがあるので、ゆったりと食べる形、ボリュームのものを。近くのお店で飲み物を買って合わせるのもよし。写真映えする見た目になるのもポイント。



いい川にはおいしいサンドイッチを



野火止用水



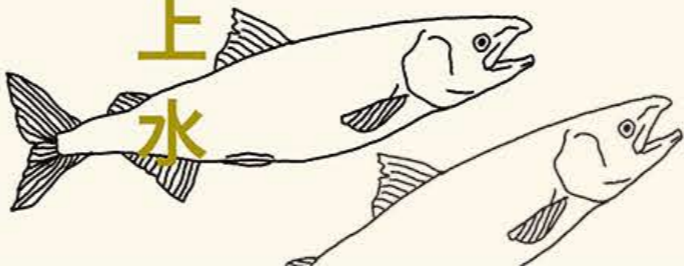
材料：ゆで卵、にんじん、キャベツ
ソース：ケチャップ+マヨネーズ+おろしにんにく



野火止用水の長閑さのような、素朴な素材のサンドイッチ。豊かな緑の中で食べる色鮮やかなサンドイッチは目にも美味しい。たっぷりのやさしさを味わって。

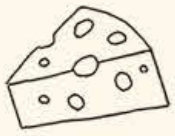


玉川上水



再生水により、かつての豊かな環境を取り戻し、さらにはお花見の名所になった目黒川。ゆったりと時間の流れる目黒川には、濃厚な味わいのサンドイッチがぴったり。静かな川面や水鳥を眺めながら、川沿いのベンチで食べるのがおすすめ。

かつて芦原が広がっていた江戸も、江戸時代以降は日本の政治の中心地となった。18世紀には人口が100万人を超え、世界最大の都市になった。その原動力になったのが、玉川上水である。多摩川から江戸市中に水を引き込み、水需要が高まった江戸の街を潤す目的で整備された玉川上水は、現在の羽村取水堰から新宿区の四谷大木戸までの区間約4.3キロを着工から1年に満たないスピードで完成を迎えた。水道管路網が発達した現代においても、玉川上水は未だ現役であり、羽村取水堰から玉川上水駅付近の小平監視所までの区間では、多摩川からの導水路として利用されている。小平監視所より下流は流れが途絶えていたが、1986年8月に清流が復活した。玉川上水緑道として整備されている関東ローマ層に掘った素掘り水路には、昭島市にある多摩川上流水再生センターで下水を高度処理した再生水が流れている。放流地点には、「上水小橋」と呼ばれる人道橋が架けられており、玉川上水が流れているところまで降りることができる貴重な場所となっている。



材料：チーズ、レタス、ベーコン
たまご焼き、エリンギのソテー



自然豊かな玉川上水では、たっぷりキノコで緑を感じて。しっかりボリュームのサンドイッチで、ウォーキングのエネルギーチャージをしよう。



川の近くまで行って川の流れを見ることができる

江戸幕府の老中であつた川越藩主の松平信綱は1653年に玉川上水を完成させた。飲料水の確保や開墾のために、玉川上水から領内の野火止(埼玉県)への分水が幕府より許可され、1655年に野火止用水が完成した。人々の生活が豊かになり、信綱の官位名から野火止用水は「伊豆殿堀」とも呼ばれている。その後、水道の普及により野火止用水に生活排水が流入したことから、玉川上水からの分水は停止され、暗渠化が進んだ。しかし、歴史的にも貴重な野火止用水をよみがえらせようとの住民の機運が高まり、都は1974年に隣接する樹林地とともに歴史環境保全地域に指定した。そして、1984年8月、玉川上水より2年早く「清流復活事業」に着手した。現在、野火止用水を流れている水は、昭島市にある多摩川上流水再生センターで下水を高度処理した再生水を送水し、清流を復活させている。また、都内を流れる野火止用水のほとんどの区間は、野火止用水緑道となっており、武蔵野の自然の中を歩くことができる。

